

平成 29 年度 第 2 回山科区民まちづくり会議
グループ別討議まとめ

【I 環境を守り継ぐ】

- 「花いっぱいプロジェクト」(プランターを幹線道路に置く運動)は、咲いているうちは綺麗だが、枯らしてしまうことも少なくない。枯らさずに管理できている地域の管理体制を調査して、取組に反映してはどうか。
- 山科川の水質管理を行うとともに、他の川も調査すべきだ。化学物質の成分調査だけではなく、清掃イベントの数や拾われたごみの量なども、指標に加えてはどうか。
- ごみの発生抑制や分別について、取組のヒントが欲しい。
- 環境問題で重要なのは、自動車の保有台数ではなく、どれだけの排気ガスを排出しているかだ。自動車の走行時間も指標に加えてはどうか。
- 走行時間と居住地域でクロス集計し、走行時間の多い人が住んでいる地域を明らかにしたうえで、その地域に重点的な公共交通投資を行うべきだ。
- 学校教育現場での指導が重要だ。どれだけの学校でどれくらい指導を行っているかということも指標に加えてはどうか。

【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

(1) 農業

- 山科区役所は、交通の便のよい場所なので、学生に協力を仰ぎ、農作物を集めたイベントを行ってはどうか。
- 勸修寺ブドウは、山科区内では良く売れるが、区外への発信はまだ不十分だ。全国的に知名度の高い清水焼団地やそのイベント会場で、勸修寺ブドウを PR する冊子を置き、情報発信を行ってはどうか。
- 収穫期が限られているブドウだけではなく、シーズンを通して収穫できる果物（カキ、ナス、リンゴ、セリなど）を栽培できるとよい。また、勸修寺ブドウを使用したワインを作るなど、加工品も検討してはどうか。

(2) 新たな観光資源の創出

- 100年スパンで観光資源を作ること考える必要がある。
- 毘沙門堂の紅葉は、JR東海がCM等でPRした影響で一時期は賑わったが、現在は低調になっている。
- 山科疏水沿いも桜の時期は賑わうが、見頃が一週間ほどで期間が短いため、紅葉なども含め、長い期間、楽しめるコンテンツを用意できるといい。
- 植樹するのであれば、地域住民の理解を得ることも必要だ。

(3) 短期・長期的なビジョンの構築

- 短期的には、今あるものを生かしたり、埋もれたものを発掘したりすることが課題。山科の人々が山科を理解し、発信することが大切だ。
- 長期的には、紅葉や桜の植樹を行うなど、観光客を呼び込める環境整備が必要だ。
- 旅行会社又は区役所を仲介にして、観光地を案内するガイドを養成すべき。将来的には、観光客からガイド料をもらえるくらいの力をつけていくべき。
- 区役所の取組は、異動等の影響もあって継続性に欠ける。仕組づくりや独自性の高い取組にじっくり取り組める体制づくりをしてほしい。

(4) 観光資源の振興

- 牛尾山はハイキングコースがあるのに止まっている。かつてあった便所の再整備が必要だ。
- 清水焼などの伝統産業は最盛期に比べて売り上げが低調である。仏具なども、新調ではなく、修理の依頼で経営が成り立っている状況である。全国的な知名度は高いが、地元への発信が足りない。
- バス会社に季節ごとに特色ある観光ルートを作ってもらってはどうか。
- 山科検定などと連携し、ガイドを育成していけないか。

【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

（１）区民のための交通環境整備

- バスの利便性を高めるべき。渋滞などでいつも遅れるようでは住民にとって不便なので、バスの定時性は確保しなければならない。
- バスを走らせると同時にマイカーを減らす必要がある。
- 10人乗りの小型バスでもよいので、五条通経由のバスを増便してほしい。現状は1時間に2～3本だが、5～6本走れば使いやすくなる。

（２）観光客のための交通環境整備

- 高速バスのバス停を復活させ、観光客を誘致してはどうか。
- 点在する山科の観光名所を分かりやすく案内できるよう、道路にカラーマーカーで印を付けてはどうか。
- 観光客が容易できるよう、市営駐輪場を使ったレンタサイクル（1日500円程度）を行ってはどうか。

【IV-① 保健・福祉・子育て支援（子育て・青少年）】

- 子育てしやすく、暮らしやすいまちにしたいのか、観光客にとって便利なまちにしたいのか、基本計画の方向性が分かりづらい。
- 具体的にどういふ「人と人」が出会うのか。平成 29 年 12 月に赤ちゃんフェアと保育園まつりを合同で開催するが、そこでは母親と母親が出会うこと一つの目的としている。
- 乳児健診は、何度呼びかけても受診しない保護者もいる。虐待とは言えないが、ネグレクトの一種に発展しかねないので、ある程度、強制的に受診してもらうことも必要ではないか。

【IV-② 保健・福祉・子育て支援（障害・高齢・健康・人権）】

（1）民生委員について

- 民生委員は、区民の話を聞いて専門家につなげる役割を果たしているが、個人情報保護の観点から、行政から情報を得られないことも多く、地域から得た情報で活動しているのが現状だ。
- 障害のある方へのサポートは専門知識のある人に任せた方がよい結果につながることが多い。

（2）障害のある方への支援について

- 障害のある児童の放課後の過ごし方については、教育委員会が関与しないため、働く母親が困っている。
- 「放課後等デイサービス」の設置が進んでいるが、障害のある児童と地域との関係づくりができていないのかがわかりにくい。
- 障害のある方が、親の介護をしなければならないことも起こっている。手厚い支援が必要だ。

（3）ブームを活かした健康づくり

軽い筋トレは人気があり、公園体操が盛んにおこなわれている。太極拳、ヨガ、盆踊りもブームだ。そのようなコンテンツを有効活用してはどうか。

（4）図書館を地域の居場所に

- 長居できる環境にしたい。カフェと同居させるのはどうか。
⇒ 本を汚さない、汚したら弁償という認識を持つ必要がある。
- 図書館の設置場所によって、利用者のニーズが変わってくる。図書館にも地域差がある。医療機関とタイアップしているところもある。

【V 地域のつながりを強める】

(1) 学区や自治連合会によるつながり

地域のつながりを強めるためには、小さい子どもから高齢者まで多くの人が参加できるイベントが有効だ。

⇒ 山科では学区・自治連を中心に、運動会、夏祭り、敬老会、山科祭、山科義士まつりなど、誰もが参加できるイベントは充実している。

(2) 町内会、自治会によるつながり

- 町内会や自治会におけるつながりづくりは課題である。
 - 町内会から退会すると、回覧板などの情報が入らないため、孤立の危惧があり、特にお年寄りが心配である。ただし、町内会から退会しても近所同士の間関係がなくなるわけではない。
 - 町内会から退会する理由は、役の負担感、町内会費の高さ、寄付金、回覧物の多さなどがある。退会する人が多い現状を踏まえて対策を考えなければならない。
 - 地蔵盆が町内のつながりづくりに大きな役割を果たしている。(子どものいる家庭は特に大きい) 地蔵盆の準備を子どもたちに任せるなど、子どもを巻き込む工夫が大事である。
 - 学生が町内に関わるきっかけがなく、そもそも町内会加入の方法が分からない。
- ⇒ 戸建住宅の場合は、引越しのタイミングで勧誘するが、マンションの場合はわかりづらい。マンションの管理者は町内会加入に理解があっても、居住者には意識がない場合もある。